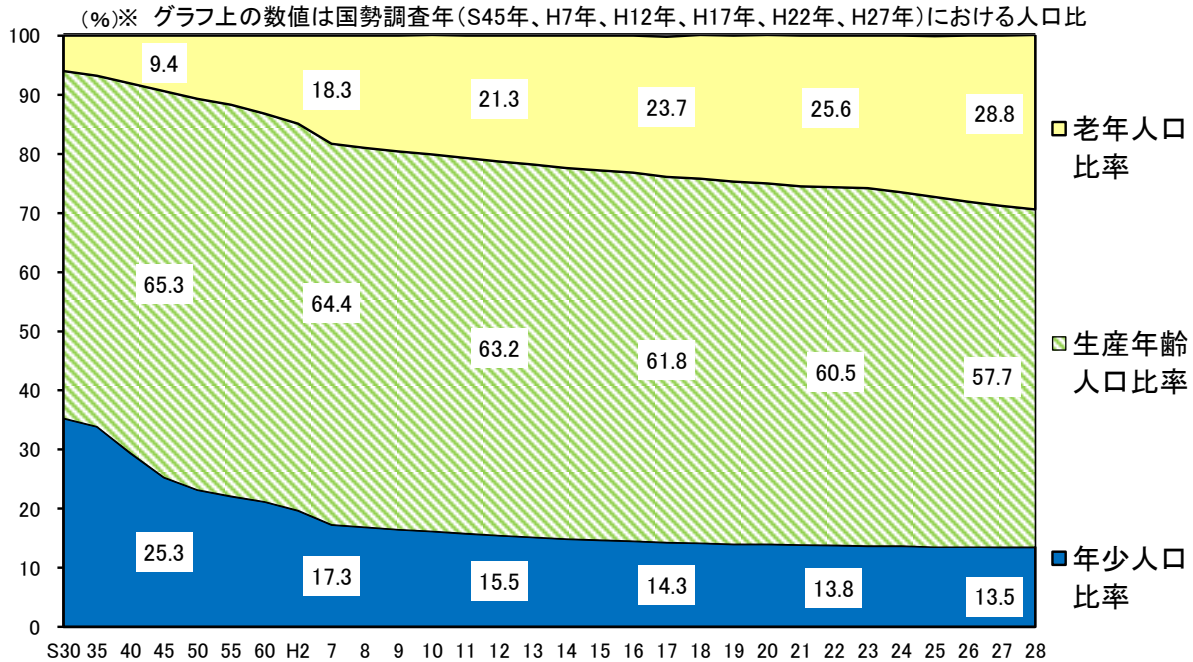


## 熊本県の年齢3区分別人口比率の推移



### 解 説

#### 【概要】

平成28年の県内の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口13.5%（前年13.5%）、生産年齢人口57.1%（前年57.7%）、老年人口29.5%（前年28.8%）となっており、生産年齢人口は、全体の約6割を占めている。

昭和30年以降の推移をみると、昭和50年代を境に生産年齢人口が減少し始め、また、年少人口は平成年代初期に2割を割り込んだ。

一方で、65歳以上の老年人口比率の推移をみると、昭和30年に6.0%だったものが、平成12年には21.3%と2割を突破し、平成28年には29.5%（全国27.3%）と全国平均よりも早く高齢化の進行が続いている。

- 老年人口  
65歳以上の人口
- 老年人口比率  
 $\text{老年人口} \div \text{総人口} \times 100$
- 年少人口  
0歳から14歳までの人口
- 年少人口比率  
 $\text{年少人口} \div \text{総人口} \times 100$
- 生産年齢人口  
15歳から64歳までの人口
- 生産年齢人口比率  
 $\text{生産年齢人口} \div \text{総人口} \times 100$

資料出所	調査期日	調査周期
「人口推計年報」総務省統計局	平成28年10月1日	毎年